

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690300043
法人名	有限会社 三井メディックス
事業所名	グループホーム 新川
訪問調査日	平成 20 年 10 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年11月26 日

【評価実施概要】

事業所番号	4690300043
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム 新川
所在地	鹿児島県鹿屋市新川町5385番地1 (電 話) 0994-40-5750

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年10月7日 評価確定日 平成20年12月11日

【情報提供票より】(20 年 8 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 17 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り (一部鉄骨) 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		600 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.5 歳	最低	83 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田病院・井ノ上病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは鹿屋市のやや郊外に位置し、周りは緑豊かな自然があり、季節の花や野菜が育つ畑があり、民家も近くに点在し、澄み切った空気が美味しく地域の一人として生活できる場所に建っている。
 代表者、管理者、職員は一丸となって何よりも個別ケアを大切に思い食事を美味しく食べるための口腔ケアを実施し身体機能低下の予防に力を注ぎ、そしてなるべくトイレでの排泄ができるよう支援し、その効果もあげている。家庭的な環境を大切にしながら、利用者の「笑顔と満足」が得られるようケアに知恵と力を注いでいる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者、職員で取り組み、サービスの向上に活かしていく姿勢である。評価ガイドの項目を参考にしてケアの目標を立て改善計画に取り入れている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成19年8月開設当初より2ヶ月に1回会議を開いている。町内会長、市の担当者、包括支援センター職員、家族、職員で構成し、ホームの活動や利用者の状況等報告している。構成員から衛生や年間の行事等についても意見を聞きサービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月「新川便り」を発行し利用者一人ひとりの健康状態や暮らしの様子等知らせている。又家族の面会時要望等伺うなど気遣いしている。介護計画の説明意見を聞き計画に反映し生活を支えている。玄関には「ご意見箱」も置き不満・苦情等表出できるよう配慮している。</p>
重点項目	<p>近隣住民と畑作業を共にしたり、中学生の職場体験学習を受け入れ利用者と若い人たちの交流も図っている。地域住民から野菜が届いたり、見学者も時にあり、散歩時顔馴染みにもなっている。なお今後は町内会に加入しホームの敬老会や行事案内もして積極的に地域住民と交流を図っていく計画である。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と話し合い「笑顔で満足、諦めない」をケアの理念とし、人間としての尊厳をもって最後まで本人らしく生活していくためのサービスの提供と地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めるものとする事を運営規定に謳い地域密着型サービスとしての役割を旨とした内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員に対しては採用時、試用期間中に理念についての説明をして意見や反省点を書き提出してもらい理念の浸透を図っている。学習会やミーティングで理念を具体化したケアとはどんな行為かを学習している。新任職員は対応の仕方を聞き、どんな時でも笑顔で接するよう日々実践に取り組んでいる。リビングには大きな字で書かれた理念が掲示しており、利用者・職員共々共有出来ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方々と畑仕事をしたり福祉交流で中学生を受け入れ職場体験を提供し若い人々との交流をしている。地域の住民からとれたての野菜が届いたりホーム周辺の散歩時顔馴染みになっている。ホーム見学者も時々あり、利用者と交流出来ている。今後は町内会にも加入しホームの敬老会等行事にも誘い積極的に地域住民と交流を図っていく計画である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価のねらいやその意義活用方法についてよく理解している。評価は管理者、職員で取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が伺える。評価ガイドの項目を参考にして、ケアの目標を立て改善計画に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度開設当初より2ヶ月に1回会議を開いている。町内会長、市の職員や包括支援センターの職員、市議会議員、家族、職員等で構成し、ホームの活動や利用者の状況等報告している。出席者から衛生管理や年間の行事についても前向きな意見やアイデアを頂いている。今後は町内会にも加入し構成メンバーから意見を頂きサービス向上に活かしていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に1~2回は大隅地区グループホーム協議会にて市役所担当者と連携をとっている。事業所内で対応困難な事項の相談やヒヤリハットの報告、又利用者の医療的な事項、職員の異動等相談し、解決またはサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「新川便り」様今月の様子」を発行し、その月の誕生会や行事の様子を写真入りでお届けし、又利用者一人ひとりについてその月の食事、睡眠、リハビリ、健康状態等普段の様子を知らせている。預かり金の使途については、金銭出納帳のコピー、領収書を送付、又は面会時に手渡しして家族の確認を頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時職員はよく声かけし、要望等何うよう細やかに気遣いし自由に言ってもらえる雰囲気づくりもしている。又介護計画の説明時意見を聞きホームでの生活に反映できるよう努めている。玄関にはご意見箱も置き不満・苦情等家族が表せるよう配慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年職員の退職者も少ないこともあり、利用者とは馴染みの関係が保たれている。新任職員は利用者で紹介し利用者も1週間くらいの内に名前と顔を覚えてもらっており、時には利用者が歓迎の気持ちから三味線を弾き聞かせる場面もある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として年間学習計画を立て認知症についてや口腔ケア、介護技術等職員に必要な内容を盛り込んで実践している。外部研修や法人研修も年4回されており、職員が交互に参加できるよう勤務調整している。不参加の職員には回覧し全職員が周知している。又認知症については個々人で学習し、知識や技術を高める努力もなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム協議会に加入し管理者はお互いのホームの様子やケアの事等で情報交換し質向上に役立てている。		今後地域の同業者と相互訪問等も実施され、ますます交流連携もよろしく日々のサービスの向上や職員育成に取り組む、ひいては地域全体のサービス水準の向上に寄与されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在のところ、職員が入所前利用者の生活場所を訪問し面談しホームでの暮らし等話し理解してもらっている。</p>		<p>今後はなるべく都合の付く限り利用者にグループホームに本人家族共々来てもらい、短時間でも過して場や職員にも慣れてもらって入所できるよう支援されることを期待します。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の関わりの中で場を上手く捉え人生の大先輩としての尊厳を支えながら過ごしている。台所の手伝いや片付けを共にしたり、職員に甘えたり又笑顔で有難うと言ってもらえたり冗談的会話も交わしともに喜び楽しみ、支援する側・される側にとられない関係ができています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で職員はよく声かけし、一人ひとりの日常会話から要望や意向、暮らし方の希望等を知り、気持ちに添うよう心掛けている。長い期間入院でベッド生活を余儀なくされていた方の要望を聞き排泄はポータブルを使用できるようケアし、新聞のチラシを見て欲しいものがあると買ってきたりと職員全員が一人ひとりの思いを大切に、取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人家族から「私ができること・私がしていないこと」や「私の気持ちノート」を使用し、要望や気持ちを知り、又、1ヶ月に1回開くホームミーティング時に職員の気づきや意見を出し、介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリング評価を行って、通常3ヶ月ごとに見直しをしている。又、利用者の体調や状況の変化時は家族、職員の意見を聞き柔軟かつ臨機応変に対応し、現状に即した計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族、主治医と話し合い、医療連携体制をとっており、長期入院を避け早期退院ができるよう支援しており、入院1週間で検査データに変化の見られなかった利用者を早期退院にしホームでの生活を支えた事例もある。又、重度化や終末期に対してその指針もあり、本人や家族の希望に応じて看取りに対応する予定である。その他買い物、墓参り、遠足に付き添い、実家に帰りたい利用者の送迎も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人や家族の要望どおり、かかりつけ医の受診検診をしている。往診も受けており、身体状況等の情報交換もして、ホーム内で医療を受ける事例もあり、健康管理がなされている。又、受診結果はその都度家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、その指針も作成し、入所時に説明している。なお、職員間・かかりつけ医とも話し合い全員で方針を共有している。現在看取り事例はないが、今後は本人家族の要望に添えるよう体制を整える予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーや個人情報の取扱いについては全員誓約書も書き常々注意するよう心掛けている。利用者の尊厳を守ることの大切さをよく理解している。入浴、更衣、排泄時の声かけ等、介護時、個々に適した対応をしてプライバシー保護の徹底に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人が主体となって毎日が過ごせるよう一人ひとりのペースに合わせ支援している。起床就寝も決まり事はなく、買い物、墓参りや散歩、実家訪問や地元の方々との付き合いを大切にしたいという思いを受け、かつての近所の方々を訪問したりして、利用者の希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者にメニューの相談をし、一緒に食材を買いに出かけることもあり、利用者を主体とした場面作りがなされ、食事の楽しみが増すよう配慮している。利用者は個々の力量や体調に応じて職員と共に食事の準備、配膳、後片付け等している。職員も同じテーブルにつき談笑しながら食事を取り適宜ケアしながら食事を大切な1つとしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めず、毎日入浴できる。1人で入浴する利用者もあれば、仲良く2人で入浴する利用者もあり、寛いだ気分で入浴できるよう支援している。羞恥心や恐怖心、不安感等もたらないよう職員は理解し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量や要望に合わせて役割や楽しみ事、気晴らしの支援がなされている。食材の買い出し、準備、配膳、後片付け等能力発揮をしてもらい、散歩に出かけたり、かつて生活していた地域に出かけ知人と会い喜びや懐かしさを味わい、年間を通じて花見、遠足、敬老会、クリスマス会、餅つき等々行事も計画され利用者の豊かな暮らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の希望に添ってホーム周辺を散歩したり、買い物に出かけたり、かつての地域に出かけたりと部屋に閉じこもることなく過ごせるよう支援している。庭には風情よろしくあづま家も造られており、利用者の憩いの場ともなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は玄関等に鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中は玄関等施錠していない。外出傾向にある利用者は職員はいつも意識して視野の中に入れるよう配慮している。又、夜勤時もホールに居るようにして見守っている。なお、外出傾向にある利用者については地域の方々にも伝えており、外出時は連携がとれるよう体制がとられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区消防組合の指導を得て年2回夜間想定で避難訓練を実施している。訓練の前には地域の方々にも知らせ理解を得ている。		今後は出来ることなら地域住民の参加、協力を得て訓練すること地震、風災害時に備えて非常用食料等準備されることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量をチェックし、記録している。1日1600Kcal摂れるよう献立も配慮し水分も1日1500ml摂ってもらえるよう食事、お茶等適宜勧めている。体調によっては食事の進まない利用者もあり、高カロリードリンク等勧め、栄養補給をして、体調管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用の居間兼食堂には木製のテーブルやいすが置かれリビングは天井も高く吹き抜けになっていて、明るく開放感を感じることができる。台所からは居間を見渡せるような間取りになっており、利用者職員共々絶えず顔を合わせることができる。テレビの前にソファも置かれ、壁には利用者の絵や手芸品も飾られ畳の間には下肢のむくみをとるマッサージ機器もあり、思い思いの場所で居心地よく過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者家族とも相談し今まで使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。小箆笥や思い出の写真、三味線、布団や毛布等持ち込みその人らしく暮らせるよう居室作りがなされ、不安やダメージを最少にするよう配慮されている。		